【一月の言葉（令和六年）】

いのちを輝かせて生きていこう！

浄土真宗の大切なお経の一つ『阿弥陀経』の中に「五濁悪世（ごじょくあくせ）」という言葉が出てきます。［五つの濁（にご）ったものによって世の中が悪くなっている］

①「劫（こう）濁」劫とは時の単位のこと。時とともに社会が複雑になり、いろんな弊（へい）害が起きてくるという時代の濁り。

②「見（けん）濁」意見の相違で争いが起こる。自分が正しく、相手が間違っていると思い込んでいる考えの濁り。

③「煩悩（ぼんのう）濁」迷いや欲望が増幅し、それに振り回される心の濁り。

④「衆生（しゅじょう）濁」人と人との間で差別や偏見や競争が起こる人間社会の濁り。

⑤「命（みょう）濁」いのちが軽んじられる状態。生きていくことの意義が見失われ、生きていることのありがたさが実感できなくなるいのちの濁り。

この五つの中で、特に「命濁」についてしっかり向き合っていただきたい。私たちは心のどこかで〈いのちの尊さ〉を理解しているつもりでいますが、しっかり〝意識〟したものではないように思えます。「ただ何となく人生を過ごしている」「漠然（ばくぜん）とした思いで毎日毎日が過ぎていく」、それでは人生が濁ってしまいます。AI（人工知能）とか、IT（情報技術）の開発が進み、生活環境が大きく変化する中で、私たちはいのちの尊さを自覚し、生きていることに〝感動〟を持って、いのちを輝かせながら生きていきたいものです。（興照寺報 三十四号・八十二号 参照）